

喪服のテルプシコラー

ダンスという現象は、現れたその次の瞬間たちまち消え去ってしまう。意味も求めず、シャボン玉のように刹那的な一瞬にまた出たいという一心で、踊り続けてきたような気がします。ダンスの誕生を迎えるためには、何度も練習したりして、ある程度の時間をかけることが多いです。しかし私たちは、そうして必死に産んだダンスの死をどのように送ってあげられるのでしょうか？

まずは、バレエの基礎的な動きをモチーフに、それをひたすら繰り返すことから始まります。モチーフがモチーフのままではいられないくらいに。最終日には、喪服を着て(文化が違えばその姿かたちもそれぞれでしょう)、ダンスとして送り出してあげたいと思います。生まれて初めて踊る人も、これまでずっと踊ってきた人も、同じ日、同じ時間に、同じ舞台上に立ちます。短いようで長い人生をいつか振り返った時、私たちの身体に到来した無意味で、ヘンテコで、美しい瞬間を思い出し、笑い合えますように。(中間アヤカ)

国内外の第一線で活躍するアーティストを妙高市に迎えてダンス・ワークショップを行ってきた MYOKOSK00L も 7 回目を迎えることになりました。今年はダンサー・振付家の中間アヤカさんをお招きします。中間さんの代表作『フリーウェイ・ダンス』を初めて観た時、家族や友人など身近な人たちのダンスの記憶を振付として扱う中間さんの発想のユニークさに驚き、観客との関係の中から即興的に次々と紡ぎ出されるダンスに鮮烈な印象を受けました。作品の根底にみえるのは、どんな身体も排除しないような中間さんのやわらかでスケールの大きな眼差しです。これが偶然性も異物もなんでも受け入れる不思議で柔らかな空間を作り出していたように感じられたのです。この作品は日本で公演された後、あっという間にパリやブリュッセルの著名な美術館やフェスティバルにも招聘されたのですが、それは中間さんが作り出すような記憶や体験を通じて他者とつながっていく「場」が今の世界に必要とされているということの証なのではないかと思えます。

ダンスは、はかなく一瞬で消え去る芸術です。しかし、中間さんは心踊るような「ダンス」の瞬間を捉えることがまず信じられないほど上手です。さらにその瞬間をその場に居あわせた人たちも深いレベルで共有することができる稀有なアーティストです。今回の MYOKOSK00L はワークショップを通じて、参加者の方々とダンス作品『喪服のテルプシコラー』(仮題)を創る予定と伺っています。テルプシコラーは踊りを司るギリシャの女神の名前ですが、中間さんと妙高市の皆さんとの出会いの中に、どんな踊りの神様が舞い降りてくるのでしょうか。今、ここにしか存在し得ない奇跡的なダンスがきっと生まれるはずだと楽しみにしています。(越智雄磨)

創作日程 会場：妙高市文化ホール

- 一日目 9月7日(土) 12時～16時
- 二日目 9月8日(日) 12時～16時
- 三日目 9月14日(土) 12時～16時
- 四日目 9月15日(日) 12時～16時
- 五日目 9月21日(土) 12時～17時
- 六日目 9月22日(日) 作品上演日

全6日間の期間中に越智雄磨さんによるレクチャーと、特別講師によるワークショップも予定しています。

対象 18歳(成人)以上、シニア大歓迎。

バレエをテーマに扱いますが、ダンス経験やジャンルは不問です。

原則全日程に参加・出演できる方。

(すべての日程に参加できない方は応相談)

参加料 3,000円(保険料込み)

申込方法

- ・QRコードリンク先の申込専用フォームから申し込む。
- ・妙高市文化ホール受付窓口(8:30-17:00)で申し込む。



↑申込専用フォーム



©Bea Borgers

中間アヤカ

別府生まれ、神戸在住。

英国ランベール・スクールでバレエとコンテンポラリーダンスを学んだ後、文化庁・NPO法人DANCE BOX主催「国内ダンス留学@神戸」1期に奨学生として参加。これまでに黒沢美香、contact Gonzo、チェルフィッチュ等の作品に出演。ダンサーとしてキャリアを始め、近年は自身の作品創作に積極的に取り組んでいる。「鑑賞」を超える「体験」として、観客の身体の記憶に結びつくような複雑な要素を用いる多孔的な作品が特徴。「ダンスとしか呼ぶことのできない現象」を追い求め、それが現れる瞬間を他者と共有するための「仕掛け」を創り出すことに挑戦している。第16回神戸長田文化奨励賞受賞。セゾン文化財団2024年度セゾン・フェロー。

申込締切日 9月1日(日)